



図 7 干渉計用音響光学型分光計説明図

これにより、次にとるべきアンテナの配置を決めたり、もう観測は打ち切ってもよいといった、極めて効果的なフィードバックを行うことができる。

6. むすび

以上、極めて簡単に計画全般にわたって紹介したが、とにかくこれが絵に画いたモチでなく、今から4年後には現実に姿を現わすものであることが、これまでと全く

異なる。土木工事は昭和 53~54 年度で完了し、昭和 55 年度には現地組立てにかかることになっている。同時に建物は完成し、昭和 56 年度は調整の年ということになっている。まさに、わが国天文学にとっての大事業である。もとよりこの装置は、全国共同利用であり、建設の段階から大いに注文をつけ、また御協力いただきたい。

雑報 [I]

1978 年へび座新星

倉敷天文台の本田 実氏は、2月28日20時03分~20時07分(世界時)に撮影したフィルム上でへび座に9等級の新星らしい星像を発見し、東京天文台へ通報された。東京天文台本會観測所で3月4.82日(世界時)に行った確認観測で次の位置に写真等級で8.3等の星を確認した。

$$\alpha = 17^{\text{h}}48^{\text{m}}59^{\text{s}}.74 \quad \delta = -14^{\circ}43'8''.2 \quad (1950.0)$$

続いて3月7.83日(世界時)に得た2度プリズムによるスペクトルには、 $H\alpha$ の輝線など新星の特徴が見られたので、新星であることが確認された。なおこの新星は、本田氏にとっては4個目の発見である。

(香西洋樹)

低速度移動天体 Chiron

ヘール天文台のコワルは122cmシュミット望遠鏡で写した乾板上に低速で移動する18等級の天体を発見した。発見日時と位置は次の通りである。

$$1977\text{年}10\text{月}18.38090\text{日} \quad \alpha = 2^{\text{h}}05^{\text{m}}34^{\text{s}}.09$$

$$\delta = +12^{\circ}09'12''.5 \quad (1950.0)$$

東京天文台本會観測所の試験観測期間中に写された写真にもこの天体が写っていることが判明するなど、各地で古い乾板の調査や、観測が行われた結果、次の軌道要素がマースデンによって得られた。

$$T = 1996 \text{ Feb. } 19.5345 \text{ E.T.} \quad \text{Epoch} = 1977 \text{ Sept. } 14.0 \text{ E.T.}$$

$$\left. \begin{array}{l} \omega = 339^{\circ}.1051 \\ \Omega = 208.7141 \\ i = 6.9229 \\ q = 8.509883 \text{ AU} \end{array} \right\} 1950.0 \quad \left. \begin{array}{l} e = 0.378623 \\ a = 13.695195 \text{ AU} \\ n^{\circ} = 0.01944702 \\ P = 50.68 \text{ 年} \end{array} \right.$$

(香西洋樹)